

事業実施の目的	町内の園校のすべてが隣接しているという連携しやすい環境を活かし、保小中の連携が継続的で実効性のあるカリキュラムを作成・実践するとともに、保小中のみならず家庭・地域との連携を強化し、家庭の教育力の向上を図りながら0歳児から中学3年生まで一貫した方向性で子どもたちを育成する。
----------------	--

事業内容・成果 (R4年度)	<p>1. 主な取組内容について</p> <p>【架け橋期のカリキュラム開発会議】</p> <ul style="list-style-type: none"> □開発会議メンバー 大学教授、認定こども園園長・副園長、小・中学校校長、年長児担任、1年生担任、保護者等 14名 □開催頻度 開発会議 3回、保育士・教員合同研修会 1回、部会長打合せ会 1回、その他部会を随時開催 □会議内容 事業内容の説明、情報共有、カリキュラム案の検討 <p>【架け橋期のカリキュラム】</p> <p>開発会議メンバーで組織する3つの部会が担当部分のカリキュラム案を作成し、大学教授の指導助言のもとカリキュラム開発会議において全体で協議。町特産「ミネラル野菜」とのかかわりを軸としてカリキュラムを編成。</p> <p>〔部会〕①架け橋期カリキュラム部会 ②連携（一貫）カリキュラム部会 ③家庭・地域教育部会</p> <p>【園・小中学校における体制】</p> <p>既存の保育・教育活動から年長児と1年生が交流（連携）できる活動等の洗い出し。開発会議メンバーである園長、校長、担任等を中心としてカリキュラムに基づく交流活動の実践や保育・教育計画への反映。</p> <p>【自治体における体制】</p> <p>福祉介護課（認定こども園を所管）と学校教育課（学校を所管）が開発会議の事務局として連携。幼児教育保育アドバイザーと学校教育アドバイザーを調整役として配置。全ての保育士・教員を対象に合同研修会（遊びと教科のつながり）を開催。</p> <p>2. 主な成果について</p> <p>カリキュラムを作成したことにより、保育・教育計画に交流活動等を入れ込むことができたため、確実な実践が見込めるようになった。会議や研修会を通して、保育と学校教育のつながりについて理解を深め、意識が高まった。（R5から定期的な相互参観を実施）</p>
--------------------------	--

事業実施地域・協力園校 (R4年度)	<p>【実施地域】</p> <p>福島県耶麻郡西会津町</p> <p>【協力園校】</p> <p>幼：公立保育所型認定こども園 1園</p> <p>小：公立小学校 1校 中：公立中学校 1校</p>	今後の目標 (R5年度)	<p>令和4年度については、コロナ禍により交流活動を十分に展開することができなかった。今年度は、カリキュラム案に基づく実践を積極的に行っていくとともに、実践の結果を踏まえてカリキュラム案の見直しを図っていく。</p> <p>また、定期的な相互参観等により保育・教育活動について理解を深めていく。</p>
------------------------------	---	------------------------	---

